

しち てん はっ き 七 転 八 起

校訓：自主・協同・創造

学校通信 NO. 3
令和4年 5月23日

大きな行事と「心の成長」

昨年度の5月は、緊急事態宣言下での学校生活となり、GWでは、感染拡大防止措置のため部活動が停止でした。目標である総合体育大会に向けて、気持ちが昂るGWとはなりませんでしたが、しかし、本年度は、感染防止対策に配慮しながらもGWを充実したものにできたのではないのでしょうか。

また、第34回体育大会も3年ぶりに保護者のみなさまにも参観していただきました。時間短縮、規模縮小という条件下の中での体育大会でしたが、新しい試みとして縦割り（団）で取り組み、新しく「応援合戦」のパフォーマンスを入れるなど、子どもたちの自己達成感や自己有用感を育む主体的な活動となりました。



「コロナだから仕方ない」ではなくて「コロナだから仕方がある」と言い、新しいことに意欲的に挑戦する先生方や子どもたちを見ていると、嬉しくなりました。

コロナ禍や自然災害など、自分ではどうしようもないことが、これからもあると思います。しかし、「気持ちの持ち方」は、自分自身が自由にできるものです。それは、これからの自分を変える大きな力にもなります。これから大人になっていく子どもたちは、生活を安心と喜びに満ちたものにするために、絶えず自分の心を成長させていく必要があります。

体育大会という大きな行事が1つ終わりました。5月末には1，2年生の校外学習があります。3年生は進路説明会です。必ずしも理想通り上手くいくことばかりではありません。目の前にまた困難な状況が出てくることもあるかもしれません。しかし、「気持ちの持ち方」で、その状況を受け止め、周囲の人たちと向き合い、そして困難をのりこえることができます。大きな行事が終わるたびに、大人として心が成長していきます。

今の自分は何をすべきで、何ができるのか、自分で考えて判断し、行動してください。まだまだ新型コロナウイルス感染が収束したわけではありません。いつまた厳しい状況がくるかわかりませんが、皆さんなら、困難をのりこえて逞しく成長してくれると信じています。

校長 高森 伸彦

第34回体育大会が開催されました。

昨年度から例年の猛暑の中での体育大会を見直し、この5月での開催としました。コロナ禍の影響で無観客での開催が続いていた体育大会も、規模縮小ではありましたが、3年ぶりに保護者の皆様を招いて体育大会を開催することができました。本年度は、団での取組に挑戦し、応援合戦など新しいことにも挑戦しました。生徒たちは、仲間とともに取り組む団結力、できることを精一杯に努力しようとする精神力を育んでくれました。

